

男女ともにインターハイ出場！

麗澤瑞浪高校テニス部の夏

5月に行われた岐阜県高等学校総合体育大会テニス競技で、男子と女子ともにインターハイ出場を勝ち取った麗澤瑞浪高等学校テニス部。

男女それぞれの練習方針や大切にしていること、インターハイに向けた意気込みを聞きました。

男女でインターハイ出場は
同校テニス部で初の快挙

県内でも屈指の強豪校として知られている麗澤瑞浪高等学校の男子テニス部。大きな転機となったのは、2015年のテニス部寮の立ち上げでした。

「コート上では、どうしても普段の生活習慣や考え方が出てしまう。寮生活で規則正しい生活を送り、一人ひとりにもっと強くなるための自覚や意識を養ってもらいたいと思ったんです」と話すのは、男子テニス部監督の杉江尚紀先生。部員全員で寝食をともにしながら人間性を高めていったことや、テニスに関しての悩みを共有しやすい環境の整備などが、少しずつ大会での好成績につながっていったと振り返ります。

中でもここ数年は、創部以来でもっとも強いチームに成長。今年1月にあった全国私立高等学校テニス選手権大会では、団体戦で初めての全国優勝を飾りました。

そして5月に開催された岐阜県高等学校総合体育大会テニス競技では、シングルスとダブルス、団体戦の3種目すべてで優勝。昨年に続いて2年連続の3冠を獲得しました。

同校の女子テニス部も、シングルスで初優勝を達成。7月から8月にかけて行われるインターハイ（全国高等学校総合体育大会「四国総体2022」で、ダブルスと団体戦に男子が出場、シングルスは男女ともに出場という、同校テニス部で初めての快挙を成し遂げました。



男子テニス部はネットの上にロープを渡して練習。リターンとストロークはロープの上、サーブはロープとネットのあいだを狙って、それぞれの精度を高めています。練習中は選手同士でアドバイスし合う場面も



強豪としての誇りを胸に
男子テニス部



自ら考える練習や寮生活を通してチームの団結力を高めています



3年生
岩井雄大さん



監督
杉江尚紀先生

小1からテニスを始め、練習に打ち込める環境が整っている同校に進学しました。インターハイではシングルス、ダブルス、団体戦のすべてに出場が決定しています。シングルスでは苦しい場面を乗り越える力、ダブルスと団体戦ではチームの団結力を生かし、すべてで優勝を飾るのが目標です

共通点は「チームの結束」
輝かしい結果に至った背景

今年度の男子部員は13人。3年からキャプテンを中心に話し合いを重ね、部員自身で練習メニューを決めています。

「いざ試合が始まったとき、何よりも必要な自主性を養うためには、普段の練習から自分で考え、行動を起こしていく経験が大切だと判断しました」と杉江先生。部員同士でアドバイスを送り合い、それぞれが自分の課題に向き合っていくことで、部員全体の実力が上がってきていると大きな手応えを口にします。

そして寮では、杉江先生とその家族が1階に居住し、部員たちは2階と3階で共同生活。競技の実力に関係なく、誰もが公平に掃除や用具の管理などを行い、チームとしての結束力を高めています。

一方の女子は部員数11人。そのうちの4人が寮で生活しています。「この年代は、それほど目立った技術の差があるわけではありません」と教えてくれたのは、女子テニス部の顧問を務める森本展健先生。「だからこそ試合のときは、一人ひとりの気持ちがあつて、とくにうまくいかなかった場合の切り替えが大切」と語ります。

6月の東海総体を経て
夏のインターハイに挑む

6月18日と19日には、インターハイに先立って東海総体が開催されたばかり。県予選の上位校によって争われ、インターハイのシード権にも関わってくる同大会では、男子テニス部が団体戦とシングルスに4人、ダブルスに2組出場。女子テニス部はシングルスで1人が出場しました。

その結果、男子はシングルスで1人が準優勝、団体とダブルスで3位に入り、女子のシングルスは2回戦で敗退。男子のシングルスで、インターハイのシード権を獲得しました。「大会に向けての準備力や試合中の先を読む力などは上がってきましたが、全国で勝つためにはまだ力不足。これからの1カ月で一つ一つの課題を克服し、3年間の思いを胸に刻んで試合に挑んでもらいたい」と杉江先生。森本先生は「インターハイは順調に勝ち上がれば、炎天下の中で1日最大4試合。気持ちだけでなく体力も必要になりますが、県予選を勝ち上がったよい流れを全国でも維持していきたい」と意気込みます。男子テニス部は全国優勝、女子テニス部は初の大舞台の一つでも多く勝つことがインターハイでの目標。それぞれに目指しているところは異なりますが、今回の大会を通じて、部全体の底上げにつながっていきたいという思いは共通しています。



テニス部寮では、上級生と下級生のあいだで必要以上の上下関係を持ち込まず、和気あいあいと共同生活。全員で仲良く規則正しい生活を送っています

これから勝負の夏を迎えようとしている麗澤瑞浪高等学校テニス部。地元の高校生たちのさらなる躍進を願って、ぜひ皆さんも同校の活躍に注目してください。

熱い声援にあらわれる団結力
女子テニス部



試合に出ない部員たちは、熱のこもった応援で選手を後押しします



2年生
山田奈々さん



顧問
森本展健先生

テニスクラブを運営する父の影響で小2からテニスを習い、同校では中学部からテニス部に所属しています。インターハイではシングルスに出場。県予選では絶対に負けたくないという気持ちと、みんなからの応援が力になりました。インターハイでも、練習したことをしっかりと出せるようにしたい